

令和 6 年 5 月 2 4 日

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。

発生予察特殊報第 3 号

病虫害名 サツマイモ基腐病
(病原菌 *Diaporthe destruens* (Harter) Hirooka, Minosh. & Rossman)
作物名 サツマイモ (かんしょ)
発生地 京都府内

1 発生経過

- 令和 6 年 1 月、京都府内のサツマイモ栽培ほ場から収穫し保存中の塊根において、褐変症状を確認した (写真 1)。
- 当所において褐変症状を呈する塊根から分離した病原菌の形態確認 (写真 2) 及び PCR 法による検定を行ったところ、京都府内では発生を確認していないサツマイモ基腐病であることを確認した。
- 本病は、国内では平成 30 年に沖縄県で初確認され、その後計 34 都道府県で報告されている。

2 病徴と病原菌の特徴

- 本ぼでは、葉が黄変・赤変して生育不良となり、地際部の茎が暗褐色から黒色に変色する (写真 4)。塊根では、なり首から腐敗しはじめ、次第に塊根全体に病徴が進展する (写真 1)。
- 病変部には、微小な黒粒 (柄子殻) が多く形成され、胞子が漏出する (写真 3)。胞子は降雨により周辺の株に移り発生が拡大する。
- 本病はサツマイモを含むヒルガオ植物でのみ発生する。伝染源は、主に感染した塊根 (種イモ) や苗、土壌中に残った感染残渣である。

3 防除対策

- 本ぼで、本病の病状を認めた株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出して適正に処理し、薬剤を散布する (表 1 参照)。なお、茎葉の生育が盛んな時期は発病に気付きにくく、収穫時期が近づき茎葉の生育が衰えてから気付く場合があるので注意する。

- (2) ほ場内の停滞水が発生を助長しやすいので、排水が不良なほ場では排水対策を行う。
- (3) 発生ほ場で使用した農具や農機は、十分に洗浄・消毒を行う。
- (4) 発生ほ場では、次作の前に土壌消毒を行う（表1参照）。多発ほ場では、サツマイモの連作を避け、ヒルガオ科以外の作物を栽培する。
- (5) 本病が発生していないほ場で生産された、健全な種苗を用いる。
- (6) 植付け前に苗の浸漬処理を行う（表1参照）。
- (7) 防除対策の詳細は、農研機構ホームページ内の技術紹介パンフレット「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策(令和4年度版)」を参照すること。

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html



写真1 褐変した塊根

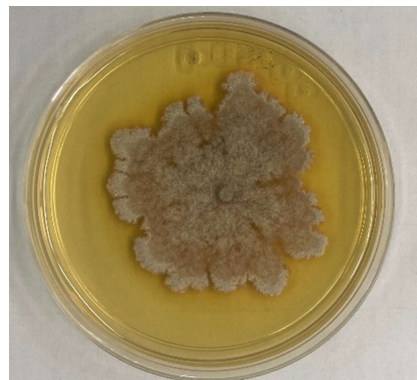


写真2 *Diaporthe destruens* の培養菌叢(PDA)



写真3 病変部の微小な黒粒(柄子殻)



写真4 暗褐色から黒色に変色した地際部の茎

注) 写真3および4は、生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業(01020C)および戦略的スマート農業技術等の開発・改良(SA2-102N)「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策(令和4年度版)」より加工

表1 サツマイモ基腐病に登録のある主な農薬(令和6年5月15日現在)

| FRACコード ¹⁾ | 薬剤名 | 希釈倍数・使用量 | 散布液量 | 使用回数 | 使用時期 | 使用方法 | 総使用回数 |
|-----------------------------|----------------------|------------------|--------------|------|-----------------------------|--|---------------------------------|
| 3(G1) | トリフミン水和剤 | 2000~3000倍 | 100~300L/10a | 2回以内 | 収穫前日まで | 散布 | 3回以内(但し、植付前の処理は1回以内、植付後は2回以内) |
| 11(C3) | アミスター20フロアブル | 2000倍 | 100~300L/10a | 3回以内 | 収穫14日前まで | 散布 | 3回以内 |
| 29(C5) | フロンサイドSC | 1000倍 | 100~300L/10a | 2回以内 | 収穫30日前まで | 散布 | 3回以内(但し、植付前は1回以内、植付後は2回以内) |
| NC/M01(M) | ジーファイン水和剤 | 1000倍 | 200~300L/10a | - | 収穫前日まで | 散布 | - |
| M01(M) | Zボルドー | 500倍 | 100~300L/10a | - | - | 散布 | - |
| M01(M) | クプロザートフロアブル | 1000倍 | 100~300L/10a | - | - | 散布 | - |
| M01(M) | クプロシールド | 1000倍 | 100~300L/10a | - | - | 散布 | - |
| M01(M) | ICボルドー66D | 50倍 | 100~300L/10a | - | - | 散布 | - |
| 1(B1) | ベンレート水和剤 | 500~1000倍 | - | 1回 | 植付前 | 30分間苗浸漬 | 4回以内(但し、植付時までの処理は1回以内、植付後は3回以内) |
| 3(G1) | トリフミン水和剤 | 500倍 | - | 1回 | 植付前 | 17時間苗基部浸漬 | 3回以内(但し、植付前の処理は1回以内、植付後は2回以内) |
| M03(M)/1(B1) | ベンレートT水和剤20 | 200倍 | - | 1回 | 植付前 | 30分間苗浸漬 | 4回以内(但し、植付時までの処理は1回以内、植付後は3回以内) |
| 1(B1) | トップジンM水和剤 | 200~500倍 | - | 1回 | 貯蔵前 ~伏せ込み前 | 30分間採苗用 種いも浸漬 | 1回 |
| 11(C3) | フリントフロアブル25 | 125倍 | 50L/10a | 1回 | 植付前 | 全面散布土壌混和 | 1回 |
| 11(C3) | フリントフロアブル25 | 10倍 | 4L/10a | 1回 | 植付前 | 全面散布土壌混和 | 1回 |
| 11(C3) | フリントフロアブル25 | 250倍 | 100L/10a | 1回 | 植付前 | 全面散布土壌混和 | 1回 |
| 29(C5) | フロンサイドSC | 500mL/10a | 50~200L/10a | 1回 | 植付前 | 全面土壌散布 | 3回以内(但し、植付前は1回以内、植付後は2回以内) |
| 29(C5) | フロンサイドSC | 500mL/10a | 50~200L/10a | 1回 | 植付前 | 全面散布土壌混和 | 3回以内(但し、植付前は1回以内、植付後は2回以内) |
| 29(C5) | フロンサイド粉剤 | 40kg/10a | - | 1回 | 植付前 | 全面土壌混和 | 3回以内(但し、植付前は1回以内、植付後は2回以内) |
| IRACコード ²⁾ 8F | キルバ ³⁾ | 原液として 60L/10a | - | 1回 | 前作の栽培終了 後から植付の15 日前まで | 前作の作物残渣を含む 土壌表面に所定量の 薬液を散布し、ただちに 混和し、鎮圧又は被覆 する | 1回 |
| IRACコード ²⁾ 8F | バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤 | 30kg/10a | - | 1回 | 植付21日前まで | 本剤の所定量を均一に 散布して土壌と混和す る | 1回 |

¹⁾ 殺菌剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、コードが異なる薬剤を使用することにより 同一系統薬剤の連用を防げる。

²⁾ 殺虫剤のコード

³⁾ 「次作の基腐病の発病抑制」での適用